

## 背景

### わが国の研究開発イノベーションにおける挑戦課題

政策課題、分野横断技術への重点取組みにより成長戦略を実現  
中長期的視野で基礎研究、人材育成を強化し国際競争力を維持確保  
世界で最も科学技術イノベーションに適した環境を創出  
科学技術イノベーション政策の総指令塔機能を強化

### JSTへの期待

科学技術イノベーション実現の触媒役  
科学技術イノベーション基盤の形成  
成果の最大化に向けた改革

## アクション

### 1. 研究開発システムの改革

研究開発課題の設定のための科学的、客観的方法論の進化(「社会的期待と研究開発領域の邂逅モデル等」)  
大学、研究開発法人における産学官連携拠点(イノベーションハブ)の構築  
オープンな環境のもとで、革新的なシステム、サービスの実現に向けた「統合化システム研究」を推進  
新規出資事業をもとにしたベンチャー起業支援の開始  
国際戦略室(仮称)を創設し、科学技術外交、国際的エコシステムの構築を戦略的に推進  
重要知財集約活用制度を軸に、ライセンスや知財現物出資等を通じて国内外における知財を有効活用  
ダイバーシティ推進室を軸に、女性、外国人の積極的登用と環境づくりを推進  
研究倫理教育を通じた不正防止

### 2. 研究開発プログラムの改革

戦略的創造研究推進事業(CREST、さきがけ、ERATO他)のための目利き機能とプログラム管理能力を強化し成果を最大化  
トップサイエンスの成果の橋渡しを戦略的に行うため、産学連携事業を再構築  
復興促進マッチング事業の成果の具現化するとともに、地域ニーズ/全国シーズのマッチングモデルを他事業へ拡大  
研究開発プログラムの国際化を進め、海外共同研究、研究交流、研究員の流動化を加速  
わが国のものづくり産業の育成に向けた基盤技術研究プログラムを具体化

### 3. 科学技術イノベーション基盤プログラムの改革

研究マネジメント人材(PM人材等)育成プログラムの立上げ  
若手研究人材、女性研究人材、次世代数理系人材の育成の包括的な推進  
科学技術情報を広く収集、一元化し、研究開発、研究経営、科学技術政策立案のための情報循環プラットフォームを実現  
ジャーナルや研究データのオープンアクセスに向けた取り組みの推進  
科学と社会(科学者、行政、市民など)の幅広い対話を推進。このためにサイエンスアゴラを再構築  
世界科学館サミット(2017)、東京オリンピック(2020)を目標に、日本科学未来館の未来創造型活動を一層強化

### 4. 関連機関との連携

内閣府プロジェクト(SIP、ImPACT)  
の成功に向けた支援  
A-MEDの円滑な立ち上げへの協力

### 5. 業務効率の向上

プライベートクラウドへ事業情報の  
集積を通じた、情報共有とセキュリティ  
の向上

### 6. 評価システムの改革

国立研究開発法人化に向けて評価  
システムを改革し、アウトカムを  
最大化